

令和7年度 医療従事者の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

1. 勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

医療従事者負担軽減検討委員会

ア. 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目	前年度までの状況	前年度までの達成状況等	今年度の取組計画・課題	取組みの評価 (R8年3月)
①初診時の予診の実施	・ブロック毎に医師事務作業補助者を配置し対応しているが、増員及び各ブロックへの配置の見直しを行い、業務内容を精査することで体制の充実を図っていく。	達成	・取組の継続。	
②静脈採血等の実施	・臨床検査技師の増員及び採血を実施する体制作りを検討する。	未達	・取組の継続。	
③入院の説明の実施	・クリニカルパス使用患者は主に入退院支援看護師が入院説明を行い、それ以外に関しては病棟クランクによる入院説明の取り組みを継続。	達成	・取組の継続。	
④検査手順の説明の実施	・6年度は人員が減となり体制を整えることが難しいと思われるが、入退院支援室及び医師事務作業補助者による検査説明について引き続き検討を行う。	未達	・取組の継続。	
⑤薬の説明や服薬の指導	・薬剤師が副作用を把握し、服薬指導などの薬学的管理を行い処方提案していく。 ・薬剤師が持参薬の鑑別や服薬状況を確認した上で、服薬計画を提案していく。 ・各病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務として、医師・看護師と連携を図り医薬品の適正使用に努める。 ・入退院支援室において服薬状況の把握、中止薬の確認および説明を実施する。	達成	・取組の継続。	

(2) 医師の勤務体制等にかかる取組 (A207-2 医師事務作業補助体制加算施設基準1. 通則1. カ①～⑥までのうち、2項目以上を実施)

項目	前年度までの状況	前年度までの達成状況等	今年度の取組計画・課題	取組みの評価 (R8年3月)
1. 勤務計画、連続当直を行わない勤務体制の実施	・当直表作成前の希望調査の実施。 ・適切な労務管理の実施。 ・オンコールを含め連続当直が行われていないかチェック。 ・応援医師による救急外来日当直の診療実施。 ・医師確保につながる取組の強化。 ・当直表、勤怠管理システムで勤務状況を確認し、必要に応じ改善を図る。	達成	・取組の継続。	
2. 予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮	・当直表作成前の希望調査の実施。 ・適切な労務管理の実施。 ・医師確保につながる取組の強化。 ・予定手術前日の当直の有無や問題がないか確認する。	達成	・取組の継続。	
3. 当直翌日の業務内容に対する配慮	・当直翌日の業務内容に問題がないか検討。 ・当直表、勤怠管理システムで勤務状況を確認し、必要に応じて改善を図る。	達成	・取組の継続。	

令和7年度 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

項目		前年度までの状況	前年度までの達成状況等	今年度の取組計画・課題	取組みの評価 (R8年3月)
ア 業務量の調整	時間外労働が発生しないような業務量の調整	<ul style="list-style-type: none"> 記録のテンプレート化を進めることが出来た バイタル連携システムの活用率が向上した 外来看護師による病棟応援体制が取れた 	達成	<ul style="list-style-type: none"> バイタル連携システムを増やし有効活用する 病棟、外来間応援により手薄になる時間をフォローしあう リーダー業務を見直し、業務量の偏りを少なくする 	
イ 看護職員と多職種との業務分担	薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> 配薬準備に時間を要している 内服自己管理を正確に行う為にアセスメントシートを修正したが、インシデントは減っていない 	未達	<ul style="list-style-type: none"> 配薬準備へ協力を依頼する 退院時の処方説明の継続 内服自己管理患者へのチェック体制の強化 	
	放射線技師	<ul style="list-style-type: none"> 造影検査時の静脈確保の研修を行い穿刺を開始した 	達成	<ul style="list-style-type: none"> 研修を継続し、実施者を増やす 	
	リハビリ職種	<ul style="list-style-type: none"> 移動介助時、リハビリ技師が複数人で対応している リハビリ後のバイタルチェックを行っている 	達成	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みの継続 	
	臨床検査技師	<ul style="list-style-type: none"> 処置室の採血業務応援については、人員不足により取組めていない 	未達	<ul style="list-style-type: none"> 増員は見込めないため、時間単位で 	
	臨床工学技士	<ul style="list-style-type: none"> 透析管理、穿刺困難事例への穿刺を行っている 	達成	<ul style="list-style-type: none"> 心電図管理の指導で、テクニカルアラームを減らす 	
	その他(職種クラーク)	<ul style="list-style-type: none"> 診断書の確認、連絡先の印刷など業務移譲ができた 	達成	<ul style="list-style-type: none"> 病棟クラーク業務の定期的な見直しを行い、全部署で業務の統一を図る 	
ウ 看護補助者の配置	看護補助者の夜間配置	<ul style="list-style-type: none"> 配膳時間に合わせ早番、遅番の調整を行った 	達成	<ul style="list-style-type: none"> 早番、遅番など部署に必要な時間帯への勤務時間を調整する 	
オ 多様な勤務形態の導入	多様な勤務形態の導入	<ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズに対応すべく細かな勤務形態を導入した 	達成	<ul style="list-style-type: none"> 取り組み継続 	
カ 妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮	夜勤の減免制度	<ul style="list-style-type: none"> 希望者はいなかった 	評価対象外	<ul style="list-style-type: none"> 取り組み継続 	
	休日勤務の制限制度	<ul style="list-style-type: none"> 本人の請求により取得可能としているが希望者はいなかった 	評価対象外	<ul style="list-style-type: none"> 取り組み継続 	
	半日・時間単位休暇制度	<ul style="list-style-type: none"> 半日単位とした年次有給休暇制度を活用し、多様なニーズに対応できた 	未達	<ul style="list-style-type: none"> 取り組み継続 時間単位での有給取得ができるよう要検討 	
	所定労働時間の短縮	<ul style="list-style-type: none"> 育児時間制度の短縮で多様なニーズに対応できた 	達成	<ul style="list-style-type: none"> 取り組み継続 	
	他部署への配置転換	<ul style="list-style-type: none"> 面談で本人の要望を聞き取り、配置転換につなげた 	達成	<ul style="list-style-type: none"> 取り組み継続 	
キ 夜勤負担の軽減	月の夜勤回数の上限設定	<ul style="list-style-type: none"> 新人個人の状態に合わせて夜勤導入をおこない独り立ちできた 一か月の回数が10回になる月があった 	未達	<ul style="list-style-type: none"> 新人看護師の夜勤導入を7月頃より始め、9～10月までに夜勤のひとり立ちを目指す 病棟配置を適正にし、一か月8～9回にする 夜勤前インターバル11時間を推奨する 	